

総合特別区域の進捗に係る評価
〔国際戦略総合特区〕

令和3年度

アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区

〔指定：平成23年12月、認定：平成24年3月〕

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(2.8+3.3)/2=3.1$

3.1

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	中部地域における航空宇宙産業の生産高	63%	3
2	中部地域における航空機・部品の生産高	53%	2
3	中部地域における航空宇宙関連輸出入額	28%	1
4	中部地域における航空宇宙関連の工場等の新增設件数	400%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 1 + 1 \times 1) / 4 = 2.8$

2.8

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評点は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.3

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(4+4+4.3)/3=4.1$

4.1

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

4.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.3

III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.7

・着実な事業の具体化を進めていると判断されるが、進捗指標の更新による評価が必要と考える。
・プロジェクトそのもののパフォーマンス・戦略よりも、外的要因(新型コロナウイルス感染症)による影響が大きいと考えられ、本来の評価が難しい局面にあると思われる。
・工場等の新增設が実績を上げているが、これに連動する生産高、輸出入額、および雇用者数に関する経過についての情報共有(可能な範囲で)が望まれる。
・航空機産業はコロナ禍が長引いた影響を直接受けた産業の代表であるので、R3年度の評価値が大幅に低い、ないしは評価不能であるのは致し方ないと思われる。MRJもほぼ再起はないと考えられるので、今後の方針としてはボーイング社関係が全てと言うことになろうかと思われる。これに加えて国内独自で進めている宇宙産業との連携に軸足も移ることも考えられる。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.7

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.1+4.1+3.7 \times 2) / 4 = 3.7$

3.7

(注) 評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。